

# 偉大なる北溟の自然

(昭和三十九年寮歌)

司馬威彦君 作歌・作曲

## 序

偉大なる北溟の自然は  
我が眼前に限りなく広がりて  
野に満てる清冽の気は  
雄々しくも気高き情懷もて  
嶮路遙かに辿り来し  
遊子が胸を今や満しぬ

## 一

颼々の北風は荒び  
白銀の華大地覆えど  
そはほろかなる古より  
汚れなき美の世界なれば  
若人はひたぶるの  
愁いを秘めて  
異邦ゆ憶懷れ集いぬ

## 二

いよ増す静寂のなかに  
永劫の影宿す原始の深森よ  
先哲の行路を慕いて  
思索胸に榆陵を歩めば  
仰ぎみるエルムの梢に  
萌え出ん若き情熱は

## 三

かりそめの宿にはあれど  
忘れ得じ若き日の遍歴  
彷徨えば夕陽の榆陵に  
宵闇はかそけくも訪れ  
睡みてし真心と友情に  
篝火は赤く燃えたり

## 四

輝ける北国のたくみよ  
されど優りて美しき自治の伝統よ  
斗い苦悩み寮友と語れば  
なごて疾く過ぎ行く二年の春  
願わなん永久の榮えを  
恵迪の寮故郷の上に

## 結

されど視よ我等が周囲を  
邪惡なる権力は四方に荒び  
我等が愛し誇らん自治の砦に  
暴逆の誠は課されんとす  
されば我が寮友よ腕むすびて  
今ぞ正義の旗を高くかかげん